２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力		
知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句等の語彙力、基本的な概念や技能、性質等を理解する力 ②新たな知識・技能と既習の知識・技能を関連付ける力	③多くの情報から適切な情報を選択し、自分なりの根拠を持って結論を導く力 ④自分や集団の考えを形成し、他者に分かりやすく伝える力	⑤困難な課題にも粘り強く向き合う力 ⑥自己の学びを振り返り、次にどう生かすかを考える力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ② ④ ⑥	①毎日の音読、読書活動により、多くの文章に触れる機会を設定する。 ①②⑥かたかなや漢字を適切に用いたり、促音、拗音、長音、助詞の書き方や使い方を理解し、文章の中で言葉を正しく使ったりすることができるように、自分の考えや感想文、振り返りなどを繰り返し書く活動を行わせる。 ④小集団の中で、自分の意見を伝え合う場や感想を交流する場を設ける。	
算数	① ② ④ ⑥	①基礎的・基本的な計算技能の習得に向け、継続的な計算練習に取り組ませるとともに、授業内で習熟の時間を確保する。 ②既習の知識をもとにして、課題を解決させる。 ④⑥自分の考えと友達の考えを比べて聞き、よりよい考えを練り上げさせ、学習を通して学んだことや考えたことを振り返る活動を取り入れる。	
生活	② ⑤ ⑥	②活動や体験、観察活動を通して、それぞれの特徴に気付き、場面にあった活動ができるようにする。 ⑤気付きを確かなものにしていくために、観察や活動の際には「見つける」「比べる」「例える」「見通す」「工夫する」という多様な学習活動を行わせる。 ⑥「町たんけん」など体験的な活動を通して、地域との関わりに気づき、社会との関わりについて深められるようにする。	

音楽	② ③ ⑥	②音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽作りの技能を習得させる。 ③曲を聴いて拍に合わせて体を動かしながら、体で思いを表現させたり、音楽づくりをさせたりする。 ⑥身近な楽器に触れることを通して、生活の中にある様々な音楽を楽しめるようにする。	
図画工作	② ④ ⑥	②手や体全体の感覚を働かせ、いろいろな材料や用具を使い、表現の仕方を工夫して自分の思いを表現させる。 ④感じたことや材料などから表したいことを思いつき、形や色、つくり方などを考えて表現させる。 ⑥身の回りの作品などの形や色などから、自分の感覚や行為を通して面白さに気付かせ、楽しさを感じさせたり、見方や感じ方を広げさせたりする。	
体育	② ④ ⑥	②授業の中で十分な運動量を確保し、遊びの中で多くの動きを経験させる。 ④児童の良い動きを紹介したり、見つけさせたりすることを通して、基本的な体の動きや技能を身に付けられるようにする。 ⑥めあてをもって学習に取り組ませ、何が分かったか、身に付いたか振り返らせる。	
英語活動	① ④	①歌やゲームなどを通して、楽しみながら英語の音を聞いたり、話したりする機会を意図的に増やし、自然と慣れ親しむことができるようにする。 ④児童にとって身近な場面を題材に設定し、自分の気持ちや考えを英語で表現する活動を楽しめるようにする。	
特別の教科　道徳	④ ⑥	④自分自身の体験などを通して、理解するために、動作化や役割演技などを取り入れ、自分との関わりで考えられるようにする。 ④話合いの視点を示したり、ペアやグループでの話し合い、自分の考えをもとに、友達の考えを聞き、考えを深めさせる。 ⑥道徳ノートに書く活動を取り入れ、自分の思いや考えを見つめることができるようにする。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力		
知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句等の語彙力、基本的な概念や技能、性質等を理解する力 ②新たな知識･技能と既習の知識･技能を関連付ける力	③多くの情報から適切な情報を選択し、自分なりの根拠を持って結論を導く力 ④自分や集団の考えを形成し、他者に分かりやすく伝える力	⑤困難な課題にも粘り強く向き合う力 ⑥自己の学びを振り返り、次にどう生かすかを考える力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ③ ④	①授業冒頭５分間の漢字練習や語彙を増やすための辞書引きを行わせる。 ③叙述が基になる内容を捉えることができるよう、読み取りの視点を明確にする。 ④書く活動や話す活動、自分の考えを形成する活動では、相手や目的を意識しながら、文章の構成を考えて書くことができるようにするために、書き方の例を示す。	
社会	② ③ ⑥	②資料の見方を丁寧に指導し、情報を整理、分析する力を養う。 ③自分の考えをもって発表できるよう、教科書や資料から分かったことや気付いたことをノートに書く場面を設定する。 ⑥本時の「問い」を明確にして学習し、何を学び、何がわかったかを考えて、授業の終わり及び単元の終わりに「振り返り」を書くことを積み重ねる。	
算数	① ① ④ ⑤	①⑤基礎的・基本的な計算技能の習得に向け、継続的な計算練習に取り組ませるとともに、授業内で習熟の時間を確保する。 ②既習の知識をもとにして、課題を解決させる。 ④自分の考えと友達の考えを比べて聞き、よりよい考えを練り上げさせる。	
理科	① ③ ⑥	①観察や実験の方法や記録の仕方等の基礎基本を繰り返し指導する。 ②本時のめあてを明確にして学習し、根拠を明らかにしながら、何を学び、何が分かったかを考えて、授業の終わり等に「振り返り」を書くことを積み重ねる。 ⑥導入で実験や映像を活用したり、普段の生活を想起させたりして、問題意識をもって活動に取り組ませる。	

音楽	② ④ ⑥	②曲を反復して聴き、曲想や感じたことの根拠を音楽を形づくっている要素から見いだせるようにする。 ④少人数のグループで歌ったり、意見を交換したりする活動を多く取り入れ、思いや意図を表現する経験を積む。 ⑥歌唱や音楽づくり等の音楽活動を通して、生活の中にある音や音楽に親しむ経験を積み重ねる。	
図画工作	② ④	②身近にある材料の色や形の特徴を生かして絵の具やクレヨンなどの色の組み合わせ、紙や木材を思いのままに切ったり、分解したり組み合わせたりする活動を行う。 ④進んで表現したり鑑賞したりする活動を取り入れ、友達や身近な作品のよさを感じ取り自分の思いを伝えさせる。	
体育	② ④ ⑥	②授業の中で十分な運動量を確保し、それぞれの運動に必要な技能を身に付けさせる。 ④身に付けたコツや考えた作戦などを、友達と伝え合う場面を設ける。 ⑥運動のコツや自分の課題など、その日の学習について身についたことや分かったことを振り返らせる。	
外国語活動	① ④	①音声を聞く機会を多く設定し、聞き取ったり話したりすることへの自信を身に付けさせる。 ④英語で伝え合うことへの意欲が高まるような場面設定を行い、他者とのコミュニケーションの楽しさを実感できるようにする。	
特別の教科　道徳	④ ⑥	④教材の世界と自分の生活を結び付けながら、多面的・多角的に考えられるように、切り返しの発問を取り入れる。 ⑥本時での学びやこれまでの経験とこれからの自分を比べて考えたことを振り返りとして書かせる。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力		
知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句等の語彙力、基本的な概念や技能、性質等を理解する力 ②新たな知識・技能と既習の知識・技能を関連付ける力	③多くの情報から適切な情報を選択し、自分なりの根拠を持って結論を導く力 ④自分や集団の考えを形成し、他者に分かりやすく伝える力	⑤困難な課題にも粘り強く向き合う力 ⑥自己の学びを振り返り、次にどう生かすかを考える力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ④ ⑥	①５分間の漢字練習や音読、辞書引きを習慣化する。漢字練習や音読、辞書引きを習慣化する。 ④課題に対する自分の立場を選択したり、２つの考えを比較したりする場面を設け、自分の考えの理由を述べることができるようにする。 ⑥単元のゴール（指導事項）を意識した単元計画を立て、めあてとまとめを正対させた授業を確実に行い、どのような力が身に付いたのかを振り返るようにする。	
社会	① ④ ⑤	①グラフや資料の適切な見方を繰り返し指導し、自力で読み取る時間を確保する。 ④単元を方向づける問いから、児童の仮説や予想を基に学習計画を立てる活動を行う。 ⑤児童が扱いやすい資料を用意したり、調べ方を全体で共有したり、個人調査だけでなくグループワーク・ペア学習など課題に応じた学習形態を工夫して、児童が調べ切ることができるようにする。	
算数	① ③ ④	①前時までの復習や適用・適応問題に取り組む活動、個に応じた指導や支援を行い、基礎・基本の定着を図る。 ③図や数直線に表して、問題文を捉えたり、自力解決したりできるようにする。 ④本時の課題を明確にし、課題解決に使える既習事項を意識させ、課題解決に取り組ませる。また、本時で学んだことを自分の言葉で書く時間を確保する。	
理科	① ③ ⑥	①観察・実験等の行い方や道具の扱い方を確認し、安全な学習の進め方について、自ら考えられるように、繰り返し指導する。 ③学習過程（課題、予想、観察・実験、結果、考察、まとめ、振り返り）を定着させ、予習、考察、振り返りでは、理由とともに自分の考えをノートに記述させることを積み重ねる。 ⑥実物や映像等に触れさせることで、より実生活に即した身近な現象として捉えることができるようにする。	

音楽	② ④ ⑥	②曲想と音楽を形づくっている要素の関わりを理解できるよう、曲を反復して聴かせる。 ④自分なりの思いや意図を表現できるよう、個人で見つけた曲や演奏のよさを、グループで交流する活動を多く取り入れる。 ⑥音楽表現や音楽を味わって聴くことを通して、様々な音楽に親しみ自分の生活の中で生かす経験を積ませる。	
図画工作	② ③ ④ ⑤	②⑤題材との出会いを大切にし、材料の形や素材の良さから、組み合わせ方などを試し想像を膨らます活動を十分に行い、発想や知識・技能をわき立たせる。 ③豊かな表現力を育成するために、絵や立体の形や色、材料の特徴や構成の美しさ、用途を考えさせる。 ④主体的に表現し、友達同士で作品の良いところを伝え合う活動を取り入れるとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を想像する授業の充実を図る。	
家庭	② ③ ⑥	②生活の中から疑問や課題を見付け、学んだことを生かして解決に取り組ませる中で、技能の定着を図る。 ③体験的活動を通して、なぜそうするのか、どうすればよいのか考え、グループで話し合わせる。 ⑥学習過程を振り返り、何ができたか、身に付いたかを考えさせる。	
体育	③ ④ ⑥	③本時のめあてを明確に示すことで授業の見通しをもたせる。 ④友達やグループ同士で声をかけたり、ICT 機器を活用し正しい動きと自分の動きを見比べることで、課題を見つけたり課題解決の時間を取り入れる。 ⑥学習カードを活用し、単元の課題や自分のめあてを確認し、できるようになったことを振り返らせる。	
外国語科	① ④ ⑥	①言葉が使われる場面を適切に設定しながら、児童が自然に表現の意味内容をつかむことができるようにしたうえで、語彙や表現を浸透させていく。 ④自分が伝えたい内容を図式化させてイメージさせながら、聞き手に順序だてて伝える方法を提示していく。 ⑥これまでの既習表現を繰り返し使う状況を作り出し、反復させることで、既習表現の定着を図るとともに、新出表現への紐づけを行っていく。	
特別の教科　道徳	③ ④ ⑥	③問題となる場面について、既成概念を揺さぶる発問を投げかけ、自分の立場を選択したり、その理由を考えたりする時間を設ける。 ④ペアやグループでの話合い活動や ICT の活用を行い、互いの考えを見たり聴いたりする場面を取り入れる。 ⑥道徳ノートを活用し、自分の考えを整理したり、振り返ったりする時間を設け、自己内対話を深める。	

A･･･取組の効果が十分に見られた　B･･･今後も課題として取り組む　C･･･取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○授業の冒頭５分復習タイム	○授業において、前時までの既習事項を復習する時間を設定している。特に国語では漢字や言葉の習得、算数では既習の知識を問う練習問題に取り組ませている。授業の冒頭で前回の学習内容を繰り返し思い出させ、知識の確実な定着と応用問題にも対応できる確かな学力の土台づくりを行っている。
○読書活動の充実	○異学年でペアを作り、読み聞かせを行う「読書ライン」、決まったテーマにそって読む「読書ビンゴ」、学級でテーマを決めて読書に励む「読書列車」などを定期的に実施している。また、国語の「書くこと」単元で作成した児童の作品展示、その作品の作成に使用した本を紹介するコーナーの設置や、図書掲示を充実させている。また、学年の目標冊数を越えると多読賞、読書パスポート300冊達成毎に校長賞の授与を行うなど、様々な活動や環境づくりを行い、読書への意欲喚起に取り組んでいる。
○うさなんテストの実施	○各学期に１度の「うさなん計算・音読テスト」を実施している。計算テストは、その学期に学習した基本的な問題に取り組ませ、音読テストは一人ずつ、学習した教材文の音読を確認している。このテストを家庭学習や日々の学習への意欲向上となるよう働きかけ、自ら学びに向かう児童の育成を目指している。
○ICT端末の日常的な活用	○授業の中で疑問点をその場で調べる、クラウドで友達と考えを共有し思考を深める、プレゼンや動画で表現するなど、学習のあらゆる場面で端末を活用している。一人一人の進度に応じた個別最適な学びと、多様な意見に触れる協働的な学びの実現を目指し、活用の幅を広げている。
○外国語学習の充実	○全学年、外国語の学習を実施し、簡単な挨拶や自己紹介、気持ちを伝える表現などを使って、実際に友達や教師と英語でやりとりする楽しさを味わうことができる活動に取り組ませている。また、ALT が、朝のあいさつや給食メニューの紹介などを英語で放送したり、他の教科の授業にも参加したりして、外国語が身近にある環境づくりを推進している。
○縦割り活動による協働活動の充実	○年間を通して縦割り班による「遊び集会」を実施している。年度初めに6年生を中心に、グループ全員で遊びの計画を立てたり、毎月高学年がリーダーシップを発揮して遊び集会を運営したりすることを通して、望ましい人間関係の構築を目指している。

家庭教育との連携

○宿題改革への協力要請	○学習習慣を身に付けさせるため、漢字10分、計算10分、音読5分を最低基準として定め、学年に応じた内容での家庭学習の実施に努めている。 ○中学年以上は、段階的に自主学習へと移行し、児童が学習内容や計画を自己決定できる仕組みを確立し、自立した学習者の育成を目指している。 ○年度初めの授業参観・懇談会にて、本校の家庭学習に対する方針や家庭学習の進め方を保護者に発信するとともに、学習の見届け、確認の協力をしていただいている。
○「ラインズｅライブラリ」の活用	○家庭学習の内容の充実を図るため、「ラインズ　ｅ　ライブラリ」の使い方に関する情報を保護者にも啓発し、家庭学習での積極的な活用を進めている。
○学校応援団による支援	○保護者にも学校応援団への参加を呼びかけ、家庭科、書写、図工、音楽、学年行事等あらゆる教育活動において学校応援団の支援のもと、学校教育を進めている。
○個人面談の実施	○１学期前半・２学期後半に個人面談を行い、学校と家庭が情報交換・共有を行い、連携を図っている。
○教育相談の実施	○月に１回「みなみっ子相談室」（教育相談日）を設定し、子供のことについての悩み等のある保護者と連携を図っている。
○小中連携した教育相談体制の確立	○さわやか相談員（中学校相談員）が来校し、児童や保護者の面談や教室巡回を実施している。小学校から中学校へ継続的な支援に繋げている。